

みぶ町政だより

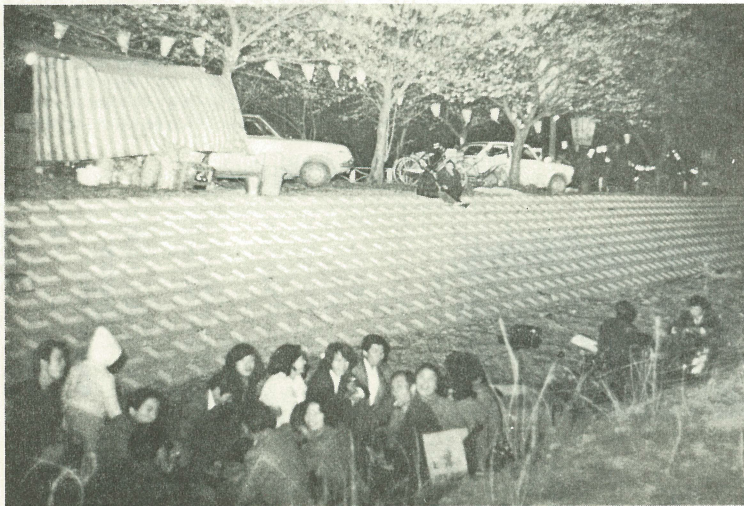


4月号

昭和47年 4月24日発行

発行所 栃木県壬生町役場 (毎月24日発行)

昭和34年 9月30日第三種郵便物認可 一部 7円



お花見

壬生の桜の名所、黒川ベリの堤には大小数百本の桜が
植えられている

ことしもまた、商工会でボンボリを立てたり、出店が
構えられるなど、観桜客を歓迎する用意をしていました。
しかし、見ごろの土曜(八日)日曜(九日)の両日には、
前日から降り続いた雨で、予定していた花見客が
っかりとせました。

それでも、雨上がりの十日、十一日には、家族連れ、
会社婦りのグループが輪をつくり、夜のふけるまで最後
の桜を楽しんでいました。

今月の人口	
総人口	26,807
男	13,314
女	13,493
世帯数	6,058

お知らせ



職員募集

町では、水道北部配水場の管理に今年完成する南部配水場の管理...

★採用人員 二名
★応募資格
(一) 年齢満二十歳以上四十歳までの健康な者

★応募手続
(二) 管理公告人居可能な者
履歴書、写真、住民票抄本

★提出先
役場総務課または水道課

★締切日 五月二十日

★その他
(公舎には、上下水道(バス付)完備、建坪土坪)

4月の納税
お忘れなく
国民年金
4・5・6月分

免許更新には

講習を受ける
四月一日から運転免許証を更新される方は、公安委員会の更新講習を受けなければならないことになりました。

講習は、免許更新の手続きをした後、交付日までの間に受けることとなります。
なお、講習は毎月一回、壬生町でも行ないますが、該当される方はその時受けてください。

五月の講習の日程は次のとおり
(一) 年令満二十歳以上四十歳までの健康な者
(二) 管理公告人居可能な者

★提出先
役場総務課または水道課

★締切日 五月二十日

★その他
(公舎には、上下水道(バス付)完備、建坪土坪)

4月の納税
お忘れなく
国民年金
4・5・6月分

心配ごと相談所

- 第一火曜日 二日 役場日本間
第二次火曜日 九日 稲葉公民館
第三次火曜日 十六日 役場日本間
第四次火曜日 二十三日 南大飼公民館

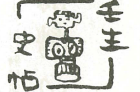
「時間は、いずれも十時から三時まで」

廃犬引き取り日

廃犬は、はなさないで廃犬引き取り日に出してください。
(一) 種 五月十日、二十四日
(二) 場所 および時間
南大飼支所 九時三十分まで
稲葉支所 十時まで

善意銀行

○壬生中二年組(代表者伊沢昌幸君)では、クラス替えになつたため、残った学級費金七二五円を老人の方のために寄付された。
○壬生町青年団体協議会(高橋正義会長)では、金二、〇〇二円を寄付された。
○東武カントリークラブでは、交通遺児家庭しと金二、〇〇〇円を寄付された。
○城南の青木信也さんは、町結婚相談員報償金三、〇〇〇円を寄付された。



名所巡り

巴御前の墓
安房郡下野村(現津市)に約四十分上田郡落を越すと中泉部落に入る文治元年京都に居る義経を殺す可く刺を土佐坊昌後に討伐を命じた下野国中泉郷を与えた。その中泉は現在の大平町でこの中泉では今も伝説が残っている。封建の頃までは字木ノ宮(東武部の墓といふ)塚があったが、発掘されて手柄のあつた勇骨に参加している。木曾義仲の父は源為義の子源義賢でその二男に生れた。義賢は源頼朝の異母兄源太義平の末に殺された。義平は品山重能に命じて、その時二歳だった駒王(義仲)をも殺させようとしたが、重能は憐れに密かに斎藤盛に託して信濃に送り、義仲の乳母の夫中三権頭兼連に預かってもらった。

兼連は駒王を木曾で養育したから世に木曾次郎義仲と言ふのである。この兼連の娘に男まさりの巴という娘があり、後義仲の妾として兄團次郎兼光、今井次郎兼平等と共に義仲の一方の将として仕え敵場で活躍したのである。
巴は非常な美人であり男まさりの勇婦でもあった。義仲が頼朝の怒りに触れ京都を逐ひたつた時、義仲と運命を共にすべく、その側を離れなかつた。味方はほとんど討死し終りに、巴は僅かに七騎とて、この時遠江の人で内田家吉という人がいた。六十十力の力があると自分でも自慢した勇士で頼朝にあって、巴と馬を交えて頑んだが、巴はこの人の首をとって義仲に見せた。義仲は「惜しむ可き士が、一女子の為に討たれてしまった。私も誰の手で、いつどこで討たれて終るのかもわからない。戦死の間まで女を連れて歩いたといわれたい」と、巴に別れを告げた。巴は「ここから別れて立去るが、お前(義仲)といふと、巴(義仲)と承知しよう」と、義仲に懇々と諭されて東國指して別れて行った。
粟津ヶ原で義仲と別れた巴は越後の友松辺りに身をかくしていたが、頼朝の除幕がきびしく、遂に鎌倉に呼び出されて森五郎に預けられた。一旦は頼朝から死刑の宣告を受けたが、彼女の勇を惜しむ和田義盛がどうして彼女を養として迎えた。そして二人の間には生れたのが(先号で述べた)朝比奈三郎義秀であると言われている。
―次号へ続く―筆者木垣

お知らせが、おくれますから、早く配布しましょう!